令和５年度 国立三瓶青少年交流の家 体験活動普及啓発事業

# 「さんべでミニ四駆体験」

## １　趣　旨

・親子で制作活動に取り組むことを通して、「ものづくり」の楽しさを知るとともに、作ったものを使って実際に遊ぶ楽しさを体験することにより、体験活動への興味・関心を高める。

・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知る。

・体験活動に興味・関心をもち、以降も体験活動をしたいという意欲をもつ。

## ２　事業の概要

（１）期間

①　令和５年６月１７日（土）～１８日（日）＜1 泊 2 日＞

②　令和５年７月　１日（土）～　２日（日）＜1 泊 2 日＞

（２）会場

国立三瓶青少年交流の家

（３）協力

HOBBY SHOP 地球堂模型

（４）対象

主として小学生３～６年生とその家族（低学年から参加可能）

（５）参加者

募集人数各回１００人程度（３５家族程度）

①　６１人（子供２９人、大人３２人）　　応募人数６５人

②　６１人（子供３３人、大人２８人）　　応募人数７０人

（６）講　師

HOBBY SHOP 地球堂模型　　南條　達也　氏

（７）日程・内容

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １日目 | 13:30 14:00　14:30　～　17:30 19:00　～　20:30　22:30 | | | | | | |
| | 受付 | はじめの会 | Ⅰ　オリジナルミニ四駆を作ろう！！<br>～レースに向け、自分だけのミニ四駆を完成させよう！～ | 夕食・入浴 | Ⅱ　選択活動<br>①ミニ四駆改造・コース体験<br>②自主活動<br>■ゆっくり過ごす〈交流の家所内〉<br>■天体観察会〈三瓶自然館サヒメル〉 | 就寝準備 | 就寝 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２日目 | 6:30 7:00　7:40　8:40　9:00　～　11:30　11:50 | | | | | | |
| | 起床 | 清掃 | 朝食 | 退所点検 | Ⅲ　さんべミニ四駆カップ！！<br>～ミニ四駆を速く走らせ、仲間と速さを競い合おう！～ | おわりの会 | 解散 |

## ３　事業の特色

（１）プログラムデザインと企画のポイント

・通常のミニ四駆制作後、大きさの違う改造パーツ（ローラー・重し・バンパー等）を配布することにより、パーツの組合せや取付け方の工夫による走りの違いを考え、遊びながら学ぶ楽しさを感じることができるプログラム構成とした。

・教材は小学生に配布し、家族ごとに席を配置することにより、親子活動を楽しむことができるようにした。

・完成したミニ四駆のボディを自分の好きな色で塗る活動を取り入れることにより、ものづくりに対する創作意欲を高め、参加者の興味・関心につなげるようにした。

（２）運営のポイント

・熱中症対策として、体育館から冷房の効いた研修室に会場を変更して事業を行った。

・制作を行う際に実物投影機を用いることにより、講師が参加者に分かりやすく説明できるようにした。参加者の席が横に長くなったため、スクリーンを２か所用意し、参加者が映像を見やすくなるようにした。

・参加者が制作したミニ四駆をすぐに試走できるようにするため、同じ会場にミニ四駆コースを設置した。

## ４　参加者へのアンケート結果

（１）アンケートの集計　　（%）

| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
|---|---|---|---|---|
| 事業全体 | ９３ | ５ | ２ | ０ |
| プログラム | １００ | ０ | ０ | ０ |
| 運　　営 | ９１ | ９ | ０ | ０ |
| 職員の対応 | ９６ | ４ | ０ | ０ |

（２）参加者の声

・子供が試行錯誤をしながらミニ四駆を作り、楽しんでいて良かったです。

・子供にとっていい経験になり、親にとっても子供の成長に気付く機会になりました。

・理科離れが叫ばれる昨今、とてもありがたいイベントです。

・一種類ではなくいろいろな種類のミニ四駆で競争したい。

・会場が狭い。席がくっつきすぎだった。

## ５　成果と課題

≪成果≫

・参加者が作業中に出たごみを自分で片づけ、使った道具をもとの場所に返却するなど、当所が大切にしている「自分のことは自分でする。」を意識しながら活動に取り組むことができた。

・レースに集中して競い合う姿や、子供同士でアドバイスをする姿から、参加者が体験活動を楽しんでいる様子がうかがえた。

・「子供が試行錯誤をしながらミニ四駆を作り、楽しんでいて良かったです。」というアンケート記述や当日の様子から、参加者が各々で創意工夫をして改造や試走、ミニ四駆の色塗りを行い、工

具を使った創作活動に慣れ親しむことができたといえる。

・「子供にとっていい経験になり、親にとっても子供の成長に気付く機会になりました。」という感想にもあるように、親子活動の楽しさを知ってもらうことができた。

≪課題≫

・年度当初、イベントカレンダーを各学校に配布して広報を行ったが、参加者があまり集まらなかった。そこで、事業のチラシを作成して配布したが、１回目、２回目両方とも募集定員に達しなかった。

・熱中症対策のため、空調がある部屋に会場を変更して事業を行ったが、会場が狭く、窮屈になってしまった。参加者からは、机の間隔を広げてほしいとの要望があった。レース会場と制作会場を分けるなどの工夫が必要だった。

・コースに自動タイム計測装置を設定したため、一人でミニ四駆を走らせる子供が多く、待つ列が長くなってしまった。３人でミニ四駆を走らせるルールを徹底したり、複数のコースを作ったりするなど、工夫すべきであった。

・オリジナルミニ四駆の制作の際、改造のポイントをまとめた紙を配布したが、参加者から改造に必要な時間を十分に確保できなかったという指摘があった。改造したミニ四駆を実際に紹介するなど、参加者が見通しを持って改造できるようにすべきであった。

親子で作り方を考えながら制作

ミニ四駆カップの様子

全体の様子

（担当：企画指導専門職　其山　佳裕）